

■ 税務課：一般会計

Q：現年度分の償却資産の大臣配分を除いた徴収率は。

A：償却資産の大臣配分は100%の徴収率である。町長決定分の償却資産の徴収率は含めて91.9%に安全率を見込んで88%を見ている。21年度は94.6%に至っているので0.1%でも多く徴収率を上げたい。

Q：入湯税の滞納繰越分の1月分残高180万円の現在額は。

A：2月に56万5千800円、3月の先付小切手を預かっている。

■ 町長への総括質疑

Q：緊急雇用創出事業は行政の中で予算配分するだけではなく、新たに企業を起こす人件費の支援が企業の立ち上げる糧になる。何故できなかったのか。

A：駅中の観光案内所には、中々ふさわしい人間がいなかったが、国県の補助金を使って広域の観光案内所の人件費に充て取り組みを行っている。

Q：町の定員適正化計画の自立プランで行政のスリム化を提案されていた。新しい人材を求め組織の活性化を図るためにも、退職者の再任用

制度を利用してはならない。いよいよなればアウトソーシング方式で対応すればいい。町長の考えを聞きたい。

A：若人を多く採用してということでありますが、長期にわたり部署にいた方を再任用することも必要な場合もある。

Q：ペレットストーブ導入補助、廃食油の回収とこの問題に積極的に取り組む姿勢が伺われる。ディスプレイで砕いたものが下水処理場で残渣されその汚泥を発酵させてエネルギーをつくりエネルギーを発酵した物を堆肥に利用することがバイオマスタウン構想の計画である。町長の言っていることと異なっている。どう認識しているのか。

A：循環型環境地域としたい。

一般会計予算

反対討論

佐藤守正

自治体の一般会計予算というものは、その市町村の経常的な運営をするために必要な経費を定めるだけではなく、その自治体をどの方向に導いていくのかについての設計図であると思います。湯沢町の二十二年度一般会計予算はどのような設計図を描いたのでしょうか。

税収が減少するという見通しから、前年比で二億二千八百万円ほど縮小した予算案を組みました。税収の規模に見合った予算を組むというのは当然のことで、この縮小は致し方のない所です。

しかし、各課とも予算案を作るに際し、昨年と同じ事業をやるのにそのどこを削れるのかを精査し、縮減することがまず第一義、そのことだけを念頭において作られた予算であるような気がします。

縮小が第一義で、町の次の発展のための方向性が打ち出せない予算は、縮小した分だけ町の活気を削いでいきます。まさに縮小最生産であります。

たとえ予算総額は前年度より縮小されていても、きちんと町の方向性を示した事業が計画され、そのための予算が組めていけば、町民に希望と活気を与えることができたのではないかと。残念ながらそ

のことができていない予算だとは思えないのです。

私は町長に、来年度はこの事業に期待してほしい、これが来年度の町の仕事の目玉だというものを挙げるとしたら何か、と

問いました。そしたら町長から返ってきた答えは次の三つでした。

一つ、学校の統廃合と小中一貫教育。二つ、子宮頸癌ワクチンの補助。三つ、不妊治療の助成。これが来年度の町行政の目玉なのだそうです。

小学校統廃合と小中一貫教育は、まだ町民みんなで力を併せて推し進めようという合意がとれている事業だとは思えません。町民の多くがその推進を心待ちにしていると言っている状況ではありません。

また子宮頸癌ワクチン助成と不妊治療の助成は歓迎すべきものではありませんが、その対象者はほんの少数で、町民ごぞつてその恩恵を期待できるといえるものではありません。

つまり、来年度の予算は、縮小した分だけ町民の活気が縮小するような予算になってしまったのです。

以上の理由で私は賛成できないのです。